

2学期、朝晩は少し涼しくなってきましたが、まだまだ暑い日が続いていますね。中休み・昼休み、何しよう？という日は、図書室でゆっくり過ごすのもいいですよ。

「うちどく」しませんか？

「うちどく」とは、「家読＝家庭読書」のことです。お家で、本を読んでもらったり、好きな本を読んで、話し合ったりして、コミュニケーションをとろう！家族の絆を強くしよう！という読書スタイルです。

小さいときに読んでもらった本、覚えていますか？今、読み返してみると、成長した自分に気が付いて、なかなかおもしろいですよ。お家の人にも、小学生のときに好きだった本、よく読んだ本を聞いてみましょう！図書室にあるかも!?

むかしから人気 ロングセラーの本

『はれときどきぶた』

毎日日記をつけている則安君。お母さんを驚かそうとでたらめを書いたら、すべて現実に！



『もりのゆうびんきょく』

森の郵便局のはりねずみさん。お弁当のサンドイッチの間に手紙の切れはしが！誰の手紙でしょう？



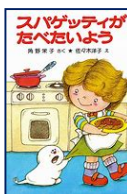
『ねずみくんのチョコッキ』

おかあさんがあんでくれた赤いチョコッキ。ちょっと着せてよとなかまたち。着るたびにのびていき…。



『スパゲッティがたべたいよう』

図書室で人気の、おばけのアツくんのお話。おいしにおいにつれられて、エッチャンの家へ。



『ぼくは王さま』

王さまはたまごやきが大好き。ある日、とびきり大きなたまごやきを作る命令を出しますが…。



『わかったさんのクッキー』

クリーニング屋のわかったさん。洗濯物に入っていたカギを返しに行き、クッキー作りのカギをマスター?!



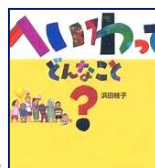
「平和」と「いのち」に関する本 あつめました！

1945年の終戦から、今年で79年が経ちました。平和って何だろう？いのちって何だろう？みんなに考えてほしいと思います。

図書室の丸テーブルに、平和やいのちに関する本を並べています。読んで、思ったこと、心に残ったことを、紙に書いて、校長先生に出しに行こう！

『へいわってどんなこと？』

ともだちということ、ごはんをたべること、うたがうたえること…へいわをかんがえてみよう。



『へいわってすてきだね』

11年前、沖縄の1年生の子が書いた詩。へいわってなにか。ぼくはかんがえたよ。



『いのちのおはなし』

いのちはどこにあると思いますか？95歳のお医者さん日野原先生から、10歳のきみへ。



『いのちのまつり』

ぼくにいのちをくれた人。お父さんお母さん。おじいちゃんおばあちゃん…ご先祖様って何人いるの？



『これから戦場にむかいます』

12年前、銃弾に倒れたジャーナリスト山本美香さんが、若い人に伝えたいと願った戦場の真実。



『平和への祈り』

少年のころ、戦争を経験した手塚治虫さん。平和を願う心が人一倍強く、作品にも残されています。



『読書の秋』家庭での読書のすすめ

学校では、国語や総合の時間に学校図書館（図書室）に行きって調べ学習をしたり、読書をしたりしています。図書室で借りた本は、家に持って帰ってもいいことになっています。『読書の秋』にちなんで、たくさん本を読んでほしいなと思っています。

放課後の時間の過ごし方の一つとして 読書を取り入れてみるのはいかがでしょうか？各学年に応じた絵本や物語や文学作品など、また科学関係の本や、歴史や偉人伝など、様々なジャンルの本に触れることで、知識も豊かになります。日常生活では、携帯電話やパソコン、タブレットを使うことが多くなり、活字離れとも言われていますが、本の世界に足を踏み入れる時間を作ってみましょう。ページをめくると、外国も宇宙も、過去も未来も、自由自在。ことばから想像を膨らませて“楽しくワクワクする世界”を経験してみてください。

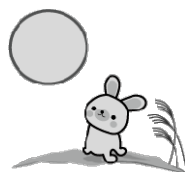


つき 月のおはなし



これからの季節「秋」は、お月さまが、きれいにかがやきます。
すすきにおだんごで、お月見するのもいいかもしれませんね♪

つき 月のもよう、何に見える？



月はいつも同じほうを地球に向けているので、いつもおなじもようが見えます。
このもよう、国によっていろんな形にたとえられています。
みんなは、どんな形に見えるかな？



© 国立天文台



おもちをつくウサギ



ロバ



ライオン



ほんよ
本を読むおばあさん



おんなひとよこがお
女の人の横顔



カニ

がそうていきょう ちゅうぶでんりょくでんき
画像提供 中部電力電気こどもシリーズ

つき みの たの 3つのお月見を楽しもう！

日本では、古くから、秋に3回のお月見がされてきたそうです。眺めてみてね。

十五夜…よく知られているお月見の日！中秋の名月。

むかしのこよみの8月15日。今年は、9月17日(火)。

サトイモをおそなえしていたことから、「芋名月」とも呼ばれます。

十三夜…むかしのこよみの9月13日。今年は、10月15日(火)。

栗や豆の収穫を祝い、「栗名月」「豆名月」とも呼ばれます。

十日夜…むかしのこよみの10月10日。今年は、11月10日(日)。

お米の収穫をお祝いし、田んぼの神様に感謝する日。



つき 「月」をめぐる おはなし

むかしむかし、「竹取の翁」とよばれるおじいさんがいました。ある日、山に入ると、輝く竹を見つけました。不思議に思って近づいてみると、小さな女の子が、竹の中に入っているではありませんか。おじいさんは、家に連れて帰り、かぐや姫と名付けて、おばあさんといっしょに大事に育てました。

やがて、大きくなったかぐや姫のもとに5人の貴公子がプロポーズに来ます。ところが、かぐや姫は、難しい問題を出し、みんな追い返してしまいました。

3年後、月を見て悲しんでいるかぐや姫。おじいさんが理由を尋ねてみると、「もうすぐ月から使いがやって来て、私は月へ帰らなければ。」と言うのです。おじいさんは、兵を呼び、家じゅうを囲わせました。しかし、月からの使者は、神々しく光り輝き、兵は動くことができません。かぐや姫は、おじいさんとおばあさんに、お礼を言って、そのまま月に帰って行ってしまいました。

つき 「お月さま」が出てくる本も、借りてみよう♪

